

陸ヨット人気

風の街・神栖ブローカート

陸のヨットと呼ばれる新スポーツ、ブローカートが神栖市波崎で人気だ。三輪の車体にヨットのような帆を着け、風力だけで走る。鹿島灘に面した「風の街」にはびっつりの競技。今秋には初の国際大会ジャパンオープンを開催する予定だ。

(川島幹之)

ブローカートは2000年になってスピードを調整する。時速は二、三千メートル(NZ)で誕生した。自度だが、車体が低く体感転車のようなバーハンドスピードは60キロを超え、最高速度は93キロを記録したという。

ブローカート競技 周回コースを巡って順位を決める。男女などの区別はなく、体重でクラス分けする。スタート前は一定時間自由に滑走、時間に合わせてスタートラインを

切るのでその位置取りが重要になる。帆は3種類の大きさがあるが、折りたたむと縦120センチ、横75センチの大きさに。車体を含め重さ約25キロなので持ち運びも自由。1台約40万円。

秋に国際大会「地元の目玉に」

NZでブローカートに夢中になったジミー・パンノートさん(45)とナオコさん(33)夫妻が03年秋、沖縄で普及活動を始め、05年12月、風を求めて神栖市波崎に移った。

「環境にやさしいエコスポーツ。男女の別や年齢に関係なく楽しめる」とのふれこみに地元商工会の青年らが飛びついた。NPO法人「Sea Win NZ(シーウィンズ)」（篠塚栄一理事長）をつくって応援。波崎漁港の敷地内で月1回の競技会を開くほか、地域の小中学生を対象にした講習会なども開いた。

篠塚理事長は「誰でもすぐ乗れる。使うのは上

半身なので、車いすの人でも大丈夫。地元中学のクラブ活動に出来たら」と話す。自身もNZの大会を見てきて「将来は専用コースをつくりたい」。パンノート夫妻はともに、全日本チャンピオンや世界大会上位入賞の記録を持つ。

国際大会についてナオコさんは「神栖市は成田に近く、東京からも2時間と絶好の位置。サッカーなど以前からスポーツ合宿が盛んだった。地元

の協力や企業スポンサーの応援など、（神栖市の）目玉をつくるという気持ちを感じる」と語る。こうした動きに神栖市は、07年度予算に大会の敷地整備費として1000万円の予算を組んだ。



ブローカートに乗ったナオコ（左）、ジミー・パンノート夫妻＝神栖市の波崎漁港で